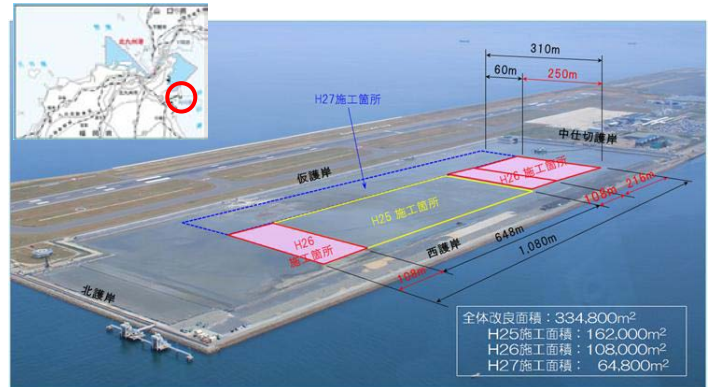


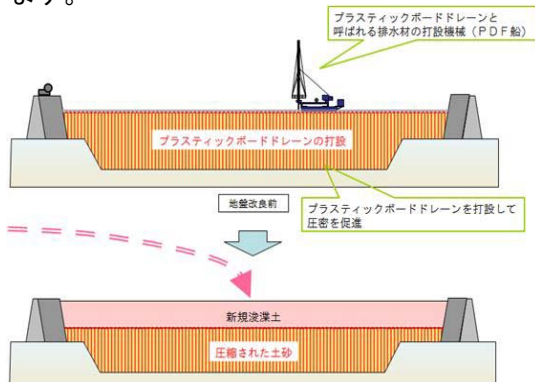
新門司沖土砂処分場の地盤改良工事がまもなく完了！

新門司沖土砂処分場は、関門海峡や新門司地区等の航路整備で発生する浚渫土砂の処分場として活用されていますが、残りの受け入れ可能容量が少なくなってきたことから、平成25年度より、容量拡大を図る方策の一つである地盤改良工事に取り組んでおり、今年度で完了を向かえます。

この工事は、処分場内に投入された浚渫土砂（軟弱土）にプラスチックボードドレーン（排水材）を打設して排水し、圧密沈下を促すことにより容量拡大を図るといえるのです。この工事で200万m³以上の容量拡大が見込まれています。今後、継続的に沈下観測を行いながら沈下予測との整合性をチェックしつつ処分場の延命化を図ることとしています。



地盤改良範囲



地盤改良工事による容量拡大のイメージ



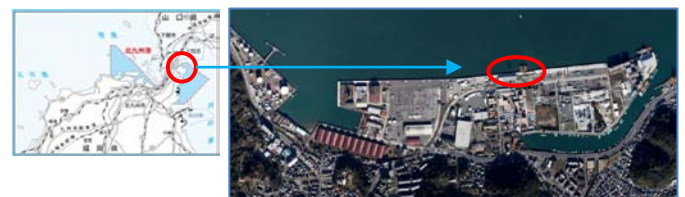
PDF船によるプラスチックボードドレーンの打設状況

岸壁の老朽化対策・改良工事を実施中!～北九州市門司区 田野浦地区～

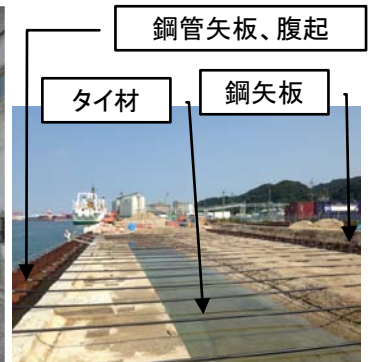
田野浦地区岸壁（-9m）は、建設後約50年経過しており、著しい老朽化に対応し、港湾荷役機能の回復を図ると共に、現在の貨物取扱に対応した施設配置に再編するための改良工事を行っています。（第4号（平成25年12月発行）でも紹介）。

改良対象3バースの内、1バースは既に改良済みで、現在、2バース目を施工中で、岸壁背後に控え鋼矢板を打設し、既に打設済みの前面の鋼管矢板とタイ材を接続する工事を行っています。

岸壁利用者との調整を図りつつ、今後は上部工、舗装工を行い、平成28年度中には2バース目の完成をめざし、引き続き事故の無いよう工事を進めていきます。



鋼矢板打込の様子



【施工例】
腹起・タイ材の取付状況



田野浦埠頭は、中古自動車の輸出基地や国際ROROターミナルとして利用されています。また、西日本一円の青果物の輸入基地にもなっています。

防災エキスパートとの意見交換会を行いました

平成 27 年 11 月 16 日(月)、当事務所において九州港湾空港防災エキスパート北九州支部との意見交換会を開催しました。

意見交換会では、防災エキスパートが行政マンとして担当した現役当時、港湾工事の現場での苦労話を聞くことができました。

参加した事務所職員は、もし当時、その現場を自分が担当していたらどのような対応をしたか、今同じような現場があったならどのような対応をすべきかを各自考える良い機会となりました。

防災エキスパート会員とは、今後とも定期的に勉強会や意見交換会を通じて、職員との意思疎通を図りつつ大規模災害時に備えることといたします。

※九州港湾空港防災エキスパート（防災エキスパート）とは…

九州地方において地震や風水害といった大規模災害が発生した際、港湾・海岸・空港施設等の被災情報の収集等、支援活動をボランティアとして行い、被災の拡大防止、被災箇所の早期復旧等に資することを目的として活動する組織で、一定年数以上の職務経験者が登録されています。



意見交換会の様子

海から歴史の舞台と関門港を眺める『関門みなと見学会』を開催しました

平成 27 年 11 月 14 日(土)、下関港と北九州港に挟まれた関門海峡において、一般公募による下関市民(24名)を対象として「関門みなと見学会」を開催しました。

これは、帆船「日本丸」の下関港への寄港に合わせ、下関市、下関港湾事務所、北九州港湾・空港整備事務所の共催により行ったものです。

参加者の皆さんには、歴史の舞台となった関門海峡、自分たちの住むまちを普段とは違う船上から眺めるとともに、港湾・海岸を見学していただき、その役割、仕組み、事業の内容などを知ってもらう機会となりました。

参加者からは、約40分間の遊覧に「とても良かった」「また参加したい」と好評の声をいただきました。

